

街として考える災害時の医療

～自助・共助の地域医療～

～医療と生活のDCP (District Continuity Plan)～

東日本大震災の発災以降、拠点業務市街地のエリア防災について、官民から高い期待が寄せられている。長距離通勤の時代、都市インフラの整備は居住人口の分布に対応した配置になりずらく、かつ日中は市民が移動しているために、人口分布と都市インフラの整備密度はさらに乖離したものになっていく。この状態で、自然災害に遭遇した場合、生命の危険から逃れたとしても、十分な社会サービスを期待できない「原始時代の状態」に滞留することを余儀なくされる人が多数出る。さらに負傷まで負った場合、馴染みのない場所に滞留した市民に対して地域はどんなケアが可能であるか、この問いの答えとして期待されるのが、DCP (District Continuity Plan) である。

被災し負傷した市民が必要とするもの、まず、第一に挙げるべきは、治療方法を判断し、関係者に自分の状況を知らせるための通信機能である。第二番目は、そういった通信機能や、臨時の治療を可能とするためのエネルギー源としての電気である。第三番目は、短期生活を支える装備としてトイレである。こういった機能を実現する手段はDCPを実践する地区によってマチマチに異なってくるが、これら移動中の市民の都合を優先して担保することが、従来に増して必要な時代になったといえる。

本検討委員会は今年度、帰宅移動する市民の導線の拠点として区中央部（千代田、中央、港、文京）と区西部（新宿、中野、杉並）という二つの二次保健医療圏をモデルにDCPの提言（昼間区民向け医療救護所連携構想）を行い、地区管理の責任論を軸とした具体論に姿を変えて変容するDCPの柔軟なあり方を提示するものである。

日時：平成25年5月1日（水）18:00～20:45

主催：一般財団法人 都市防災研究所

DCP医療拠点設立推進検討委員会

後援（予定）：内閣府（防災担当）、厚生労働省、杉並区

協力（予定）：社団法人 杉並区医師会、東京駅周辺防災隣組

会場：杉並公会堂小ホール（裏面参照）

会費：無料（事前申込登録制）

問合せ先：一般財団法人 都市防災研究所 TEL03-5218-0880

《 プ ロ グ ラ ム 》

18:00 開会挨拶にかえて「荻窪病院の役割と取り組み」 荻窪病院院長 村井 信二

18:10 「災害時医療の自助・共助について」 東京医科大学救急医学講座教授 太田 祥一

18:30 「新宿で考える医療拠点施設」
新宿駅周辺防災協議会（日本赤十字社東京都支部） 田中 真人

18:45 「東京駅の取り組み」 一般財団法人 都市防災研究所 守 茂昭

19:00 「災害対応時における行政管理責任の仕組み」
丸の内総合法律事務所弁護士 中野 明安

19:15 「荻窪で考えてみる医療連携～過剰に発生した負傷者向け医療救護所構想～」

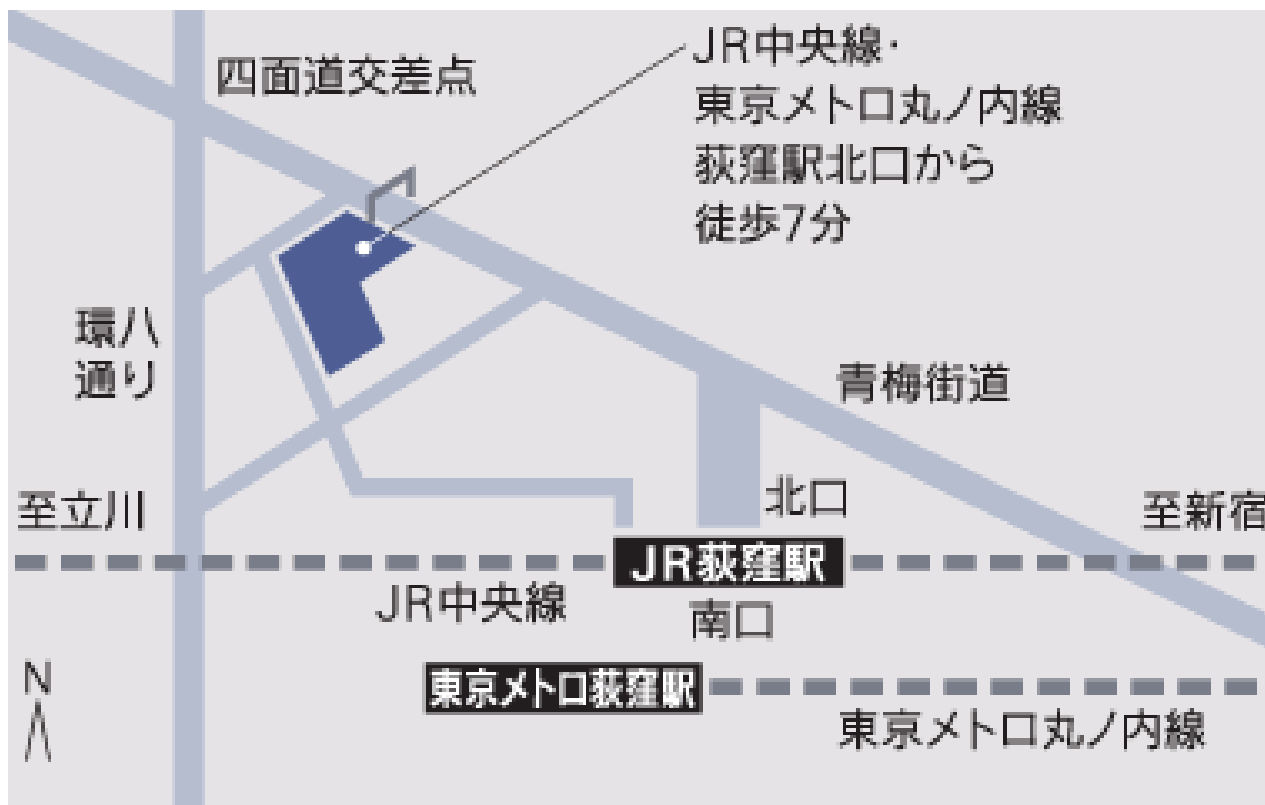
司会：東京医科大学救急医学講座教授 太田 祥一

パネリスト（予定）：

荻窪病院副院長 石井 康宏
前杉並保健所地域保健課長 大澤 章彦
前新宿区危機管理課長 平井 光雄
一般財団法人 都市防災研究所 守 茂昭

街として考える災害時の医療
 ～自助・共助の地域医療～
 医療と生活のDCP (District Continuity Plan)

会 場：杉並公会堂小ホール 平成 25 年 5 月 1 日 (水) 18:00～20:45
 〒167-0043 東京都杉並区上荻 1-23-15
 代表電話：03-3220-0401



..... 《お申込み Fax03-6434-0540》

お名前	
御所属	
連絡先住所	
連絡先電話番号	Tel
Email (任意)	@